

「サイコの晩餐」

はせ ひろいち

◆登場人物◆

- サイコ 施設の代表
- コノハ ～ 弓月 湖葉 施設の幹部
- ハルト ～ 岡部 春都 施設の幹部
- トモミ ～ 漆原 交美 サイコの友人
- ミドリ ～ 篠塚 碧 施設の幹部（新人）
- リサ ～ 阿智川 理砂 施設の元メンバー

【SCENE / 1】 暗いままの舞台。

ハルトの声 だから、誰の許可を取ったかって聞いているの。
コノハの声 部屋でしょ。
ハルトの声 何？
コノハの声 だから、この部屋の許可よ。
ハルトの声 そうだよ、部屋の許可だよ。
コノハの声 問題ないじゃない。
ミドリの声 え、誰って？

明るくなる。中央に大きな食卓。ミドリ体をうつ伏せ顔だけ上げている。覚醒直後。食卓を挟んでコノハとハルト距離をおいて対峙している。湖葉は脚立の上に腰掛けている。大きな欠伸をするミドリ。

ミドリ あ、ごめんなさい。邪魔しちゃった？
コノハ こちらこそ、睡眠の邪魔しまして。
ミドリ 寝ぼけてた？ 今。
コノハ 多分。
ハルト だから、部屋の許可は誰に取ったのよ。
ミドリ いつ寝たんだろ？ 私。

コノハ だから部屋でしょ。
ハルト ……
コノハ だってそうでしょ？ この壁はこの部屋の一部なんだから、取らなきゃいけないでしょ？ 許可。
ハルト …そういう事ね。
コノハ ちゃんと取りましたよ。その面も、その面も。その食卓も言ってくれたわ。「多分その方がいいでしょう」って。
ハルト やめてくれませんか。
コノハ えっ？
ハルト そうやって、よく判らない領域に逃げ込むのは。

コノハ、ハルトを無視して壁の一部に向う。様子から察して、コノハは壁の一部を塗り替えていたらしい。しかもピンクに。

ミドリ あら、いい色じゃない。
ハルト （ミドリを睨む）
ミドリ あ、ごめんなさい。
ハルト 私はこの色自体がウンヌン言っているわけではありません。壁の色を変える行為自体にも本質的な反論があるわけではない。そうではなくて、私は共同体としての最低限のマナーとかルールって事に関しての……
ミドリ （欠伸をする）
ハルト ……
ミドリ あ、ごめんなさい。決して悪気は……ほら起きたすぐって…
ハルト そうだ。
ミドリ 何？
ハルト 自分は別の、ちゃんとした別の目的をもってココに戻ったんです。でも来るなりこの女の自分勝手な行動が目に入って、それで……だってそうじゃないですか？ ココは少なくとも皆の共同スペースであり、壁の色一つにしても全員とまでは言わずとも、せめて幹部の了承を、いやいや、せめて私もしくは……
ミドリ いいから、はい、それで？
ハルト …ああ…すいません、どうも論理的に興奮すると、その論理的に興奮している自分に、さらに興奮するらしくて、ん、もう！

ミドリ はいはい、それで。
ハルト …また来てます。
ミドリ え？…私。
ハルト はい。それを伝えに来たんです。
ミドリ 来てるって…
ハルト 門の脇の楡の脇の辺。
ミドリ じゃあ…。
ハルト はい。
コノハ （作業のまま）やっぱ復縁でしょう。
ミドリ まさか…荷物は？
ハルト はい？
ミドリ 大きな荷物とか持ってた？
ハルト えっと…いえ、大した物は…
ミドリ そう。
ハルト スケッチしてました。
ミドリ えっ？
ハルト こう……楡にもたれて、幹に、地面に座って。
ミドリ スケッチって、この施設を？
ハルト ああ、いえ少しこっち側にずらして……きっと三郷山を背景にして
ますね、あれは。んで、牧場の宿舎を左に位置させて……
コノハ 麓に宿でも取ってんじゃない？
ミドリ うっそお。
コノハ だって、長く居座る覚悟の表明でしょ？ スケッチブックってのは。
ミドリ くっそお…
サイコ あら、みんな早いのねえ。

奥の通路からサイコ登場。何枚かの取り皿と、フォーク類が入ったコップのようなものを持っている。ちなみにこの空間は3つの出入り口を持っている。上手に外への通路、下手が各個人の部屋、そして中央奥がキッチン。サイコを確認し身を正すハルトとミドリ。コノハは脚立の上で壁塗り作業を続けている。

サイコ ちょっと待っててね、とりあえず食器持ってきただけだから、向う

やっぱ狭くて。

ハルト （畏まって）おはようございます。
サイコ （真似て）おはようございます。でも、もう夕暮れよ。
ハルト すいません、昔の風習で。
サイコ そうか、昼間顔合わさなかったものね。出張、ご苦労さん。
ハルト とんでもありません。私は、ただ…
コノハ 何か今日もすごそうね。
サイコ 大した事ないって。
コノハ だって取り皿多いし。
サイコ うん。少し位増えてもいいように。
ハルト えっ？
ミドリ 増えるって……ゲストですか？
サイコ うん、まあ、わかんないけどね。
ハルト そうなんですか？ でも予定では……
サイコ （コノハに）あら、塗り直すの？
コノハ うん。
ハルト ああ、それもあってですねえ…
サイコ 素敵じゃない。いい色。（ハルトに）え、何って？
ハルト あ、いえ……
サイコ （ミドリに）え、何？
ミドリ ええっと……
ハルト ちょっと作業を済ませてきますので……

外への通路へ去るハルト。

サイコ どうかしたの？ 私の所為？
ミドリ あ、じゃあまだ少し時間良いですかねえ？
サイコ ああ、食事？ うん10分ぐらいは。
ミドリ 私も野暮用、片してきます。

外への通路へ去るミドリ。作業に戻るコノハ。

サイコ 私、嫌われてる？

コノハ はい？
サイコ だって今のって、あれでしょ？ 何だ？ 「傷ついたハルトさんを慰めるためミドリさん追いかけるの図」でしょ？
コノハ 「待ってハルト…はあはあ…
サイコ はあはあ、って？
コノハ 走ってきたので息切れている。
サイコ ああ。
コノハ 「はあはあ……気にすることないよ、ハルト。…ミ、ミドリさん！
サイコ 上手い上手い、それぞれ。
コノハ 違うよ、絶対。
サイコ そうなの？
コノハ 目的が違うの、ココから出ていった。
サイコ 目的？
コノハ 銘々。
サイコ やぎ？
コノハ 各々。
サイコ ああ、「各々方…」ってやつ。
コノハ なにそれ？
サイコ まあまあ。
コノハ …また来てるみたい、ミドリさんとこ。
サイコ そうなの？
コノハ 旦那。ああ、元旦那。
サイコ そうなの。
コノハ そうなの。
サイコ そうなの。
コノハ …じゃあ、手でも洗って手伝いますか？
サイコ うん。

作業を終えるコノハ。脚立を片してキッチンへ去る2人。しばし無人の舞台。テーブルの中央部分の小さな扉が開いて、中からトモミが登場。それまでの窮屈な体勢をほぐしながら、おしんこをつまむ。

トモミ いったえ……さてと……

共同宿舎側に去るトモミ。ややあって、上手からハルト。

ハルト すいませんでしたあ……………ん？

無人に興ざめするものの、無意識にテーブル上のおしんこをつまむ。やがて罪悪感からか、椅子に腰掛け、手を組み、何やら念仏のようなモノをブツブツ話している。この間、下手からトモミ。テーブルボディーの閉め忘れた小扉をこっそり閉める。気づかないハルトを暫し観察するが、奥からの人の気配。瞬間迷って再び下手に。

コノハ ……になっているっていうからさ、私は良かれと思ってファイル保存しておいただけなのに。

サイコ やっぱ解凍はね、半日ぐらいはかけないと。もちろん室温でね。

話しながらキッチンから出てくるサイコ、コノハ。サイコは両手で大皿を持ち、そこにはものすごい量の食べ物が盛られている。コノハはトレイで飲み物を運ぶ。

コノハ ねえ、ちゃんと話聞いてます？

サイコ 聞いてますよ。OLやってた時の話でしょ？

コノハ うん…ならいいけど。

ハルト 戻りました。

サイコ 手も洗いました？

ハルト ええ、丹念に。他には？

サイコ 足はいいんじゃない？ お風呂の時で。

ハルト ああ、そうじゃなくて、ほか運ぶもの。

サイコ じゃあ、サラダをお願い。

ハルト 畏まりました。

キッチン側に去るハルト。

サイコ だって、あれでしょ？ お茶会の話でしょ？

コノハ はい？

サイコ オフィスの中での、手作りの。
コノハ 何でそうなるの？
サイコ だって、さっきもクッキーが焼き付いたのなんのって……
コノハ ああ…だからクッキーってのは、ウェブ上で制御ファイルが…
ハルト (戻って) ドレッシング、これでいいですか？
サイコ 先週作った方よねえ。
ハルト はい。
サイコ じゃあ、それで。

サラダを持って席に戻ろうとするハルト。

コノハ もういいわ。
サイコ だめよ、それじゃあ。
ハルト あ、変えますか？
サイコ いいわ、それで。
ハルト あ、はい。(着席)
サイコ だめよ。
ハルト はい？
コノハ いいですって。
ハルト あの。
サイコ …何？
ハルト ……あ、いえ。
サイコ (少し強い口調で) だめよ皆。いつも言ってるでしょ。話し出した事は、最後まで言わなきゃ駄目だって。ここでの最低限のルールでしょ。たった7つの約束でしょ。
ハルト はあ……
コノハ …私の方は後でゆっくりと。出来れば私のパソコンの前で。
サイコ そうお？ で、ハルトさんは？
ハルト えっと……ああ、ミドリさんは何処でしょう？
コノハ ほら。
サイコ ほんとだ。
ハルト 何か？
コノハ 別の目的。

サイコ うん。
ハルト あの……
コノハ でも、やっぱ多すぎない？ 4人分には。
サイコ 大丈夫だって。きっとお腹を空かしているから。
コノハ …ミドリさんが？ あの小食のベジタリアンが？
サイコ (天に向って) どうぞ。冷めない内に。
コノハ えっ？

作り笑顔ですごくと下手から登場するトモミ。

ハルト (立ち上り) あ、また。
トモミ どうもお～。
コノハ どうもお～。
ハルト いつ来たんですか？
トモミ ついさっき。
ハルト (サイコに) 嘘ですね。4時以降は敷地内にセンサーかけていますから。それより前に何処かに潜んでいたとしか。
コノハ まあまあ。
ハルト 何処に隠れていたのよ。
トモミ 企業秘密。
サイコ まあまあ。
ハルト でも。
コノハ 隠れようと思えば何処でも潜めるでしょ？ 井戸の脇とか、貯蔵室の左の方とか。
トモミ ああ、そっか。それいいかも。
ハルト 何がです？
トモミ ああ、いえいえ。
ハルト …明日の午前の労働には、ちゃんと就いてもらいますからね。
トモミ ええ、それはもう。覚悟のスケジュールで来てますから。
ハルト ったく、大体貴方は…
トモミ あ、そうそう、これ…

隠し持ったワインのボトルを差し出すトモミ。

トモミ 差し入れ。

サイコ 見せて。

ラベルを見たり、色を光に透かしたりのサイコ。

コノハ 座ったら？

ハルト いえ。まだまだ。もう少し。

トモミ いかがでしょう。

サイコ 良いでしょう。亜硫酸系も入ってないし。

コノハ ああ、酸化防止剤ね。

サイコ 後で成分と数量を書いといて。食べ物台帳に。

コノハ はいよ。

サイコ じゃあ、っと…

体の何処かから手品のようにワイン抜きを取り出すサイコ。

コノハ おお。

トモミ ちょっと…読まれてたの？ 何差し入れるか。

サイコ 不思議不思議。

コノハ 座ったら？ 疲れてるでしょ？ 出張帰り。

ハルト いえ。もう少し。

サイコ じゃあ、ほい。

ハルト えっ？ 私からですか？

サイコ 今日のMVPさんから。

ハルト あ、いえ、私は……

派手に拍手をするトモミ。ハルトから睨まれフェイドアウト。

ハルト (サイコに向き直り) いただきます。

サイコ どうぞ。

ハルト (おもむろに飲んで) うまい。

コノハ どうやら大丈夫そうね。

ハルト えっ？

コノハ 毒物の混入。

ハルト あ、じゃあ、毒味ですか？ 私。

サイコ まさか、本当の毒味だったら、もっとひ弱な人を選ぶでしょ。

トモミ ああ、そうか、毒が通用しないような被験者じゃね、なるほど。

ハルト あの…

サイコ 毒味なんかじゃないって事よ。

ハルト ああ……ありがとうございます。

サイコ じゃあ、そろそろ頂きましょうか？ 冷めるし。

コノハ ミドリさんいいですか？

サイコ ちゃんと間に合いますから。

コノハ えっ？

サイコ (手を叩いて) 手を合わせてください。

全員 (反射的に手を合わせる)

サイコ 今日は丑寅の方角、コノハさんから、時計の逆周り。

コノハ ええっと…(立ち上がり)…エリア5のイチゴが順調です。研究棟の追加設備候補がまとまりましたので後でアクセスしておいて下さい。午後の面談で若い子と話していて、彼女達の武力信仰の根深さを痛感しました。以上かな。

ハルト (咳払い)

コノハ ああ、それと、この壁、ピンクにします。

着席するコノハ。以下同様に。

トモミ …1ヶ月ぶりのお邪魔虫です。先週、また私のルポ物が他の人との合作で出版されまして、それも混ぜながら新刊書を10冊ほど差し入れしました。図書ブースに置いておいたので暇な時にどうぞ。

ハルト だから何時忍び込んだのよ。

トモミ 企業秘密。

ハルト アンタねえ…

サイコ まあまあ、じゃあ、ハルトさん。

ハルト あ、はい……大阪で2つのシンポジウムを拝聴し、その後、市場で商談しました。順調です。詳細は明日の内にまとめてアップしておきます。帰り道、サイコさんの代理で坂本教授にお会いしてきました。お元気そう

で、サイコさんにくれぐれもよろしくとの事でした。
サイコ ご苦労さん。じゃあ……ミドリさん。

絶妙のタイミングで部屋に戻るミドリ。皆の様子で瞬時に察し、手を合わせテーブルに付く。

ミドリ 遅れてすみません。今日もすがすがしい1日でした。月間の収支報告に目をお通し下さい。検討会議は3日後です。それと…小井元ファームの社長さんからまたジャガイモと卵をたくさん頂きました。見かけたらお礼を言っておいてください。以上です。

サイコ では……今日の格言。

少し身を正す面々。

サイコ 古代エジプトでは予言者を雇う時、7割の確率で当たる物より2割しか当たらない物を好んで採用しましたとき。

全員 なるほど。

サイコ 今日の訓話。とある刑事部屋での会話。「長さん、また垂れ込みです」「例のボウヤかい、で、何て?」「犯人は『ア』の付く奴だって。『ア』か……ア、ア、……アンルイス。……カタカナだったんですね。

全員 ………

ハルト 奥が深いつすね。

サイコ (手を叩き) いただきます。

全員 いただきます。

しばし無言ですごい料理を食べる面々。ワインも適当に回しのみ。

コノハ うわ、おいし…。

サイコ 隠し味は椎茸から抽出した苦みエキスね。

トモミ これ商売できるよ。

サイコ アンタそればかりね。

食事は淡々と続いていく。ちゃんと食べる。

ハルト (ミドリに) 大丈夫だったの?

ミドリ ああ、ええ。

ハルト 書類上は片付いてるんでしょ?

ミドリ ええ、はい。

トモミ 何の話です?

コノハ 元ダンナがご面会。

トモミ ああ。え、じゃあ、復縁騒ぎ?

ミドリ まあ、なんて言いますか…

コノハ やっぱ宿取ってるって?

ミドリ 駅前の、なんて言いましたっけ、あの屋根にこおんな木の車輪が飾ってある、

ハルト つたや。

ミドリ ああ、そうそう、多分あそこでしょうね。

コノハ 多分って?

ミドリ 言わないんですよ。でも石鹸の匂いがしたし、ひとつ風呂浴びて来てますね、あれは。

ハルト でも、つたやからココまでって歩くと小一時間かかるよ?

トモミ 自虐的なストーカー心理?

ミドリ いえ、多分近くまで、見えない所まで車で来てますね。本気じゃないくせに、思わせぶりなんです。

トモミ へえ～。

ハルト どういう事です?

ミドリ 俺はこんなに頑張ってるんだぞお、って。そのくせ絶対ココロの中では、今日だって「まあ、駄目でも気楽な一人旅だと思えばいい」って思ってる。ひとつ風呂浴びて、小道具用意して、車で近づいて、思わせぶりをおもむろに始める。それを指摘しようものなら、さらに大きな思わせぶりの仕掛けで対抗してくる。

トモミ 判る判る。

コノハ お、さすが大先輩。

ミドリ え、トモミさんってそうなんですか?

コノハ 2児を抱えたシングルマザー。

トモミ だから入りたくても入れないのよね、ココに。

ハルト (咳払い)

トモミ すいません。嘘です。
ミドリ そうだったんですか…。
コノハ で？ 今日の所は退散したの？
ミドリ さあ、見捨てて来ちゃいましたから。
トモミ 今頃ギターでもつま弾いてるんじゃない？ 楡にもたれて。
コノハ あ、いいなあそれ。
ハルト でも持ってませんでしたよ、そんな物は。
コノハ だからね、それは…

不意にすっくと立ちあがるサイコ。暫しの間。

サイコ トイレ。
トモミ ああ、うん。
サイコ うんこ。多分。
全員 ……
サイコ 先にやってて。残しておいて。
ハルト …はい。

宿舎側の通路に去るサイコ。暫し無言の面々。

ミドリ 私何か…
サイコ (さっと戻って) 気にしない気にしない。花見の段取りを付けておいて(去る)
ハルト ……………誰か嘘着きました？
全員 (トモミに視線)
トモミ ちゃんと訂正したしょ。謝ったでしょ？ ルールには抵触してないでしょ？
コノハ 私、インデアン。(手をそれっぽく上げて)
ミドリ (同様に) 私も。
トモミ (同様に) 私も。
ハルト ……(手だけ)
全員 (手を下ろす)
コノハ …ま、食べましょうか。

暫し黙々と食べる面々。

ミドリ 私、今日を機にベジタリアン止めます。
ハルト えっ？
コノハ そりゃまたどうして。
ミドリ 元々彼の影響で、アイツを真似て始めたんですね。今思えば彼の関心を引きたいのもあって…で、私はすっかり体に馴染んじゃったんだけど、アイツの方が実はただのカッコ付けだったの。こっそり隠れて焼き肉やか行ってるの。ばれるつつうねん、匂いで。
トモミ あ、判った。
コノハ 何？
トモミ それでばれた時は、思わせぶりが出る訳だ。
ミドリ そうそう。
トモミ お前を悲しませたくないから、辛いけど黙ってたとかって。
コノハ あああ。
ミドリ んで、私は半ば意地もあってベジタリアン続けて、いつしかこんなになっちゃって……
全員 ……
ミドリ 一旦離れると、ホントいろんな物が見えてきて…。
コノハ ミドリさん…。
ミドリ さっき、アイツの横っ面張ったらね、急に、肉が食べたくなった。頭にね。ジュウジュウのステーキなんか浮かんで……
ハルト …良ければどうぞ。

肉の乗った自分の皿をミドリの前に置くハルト。意を決して箸をのばすが、さすがに止めるミドリ。

ミドリ まあ、おいおい、じっくりと…
ハルト そうですね。
ミドリ 悔しいけど。
コノハ ……そうよ。無理しちゃ駄目ね。無理するって事はまだ相手が「意地を張るべき価値アリ」ってことになるんだから。
ハルト 出た、解説マニア。

コノハ なによ。
トモミ さてと、私はガツガツ食べますよお。

しばし食事が進む。

コノハ 花見会どうするの？
ハルト スケジュールは村の人と詰めている最中だけど、まだ神社の桜が
ぼみなので。
トモミ 長老が決めるんでしょ？ 毎年。
ミドリ へえ、そうなんですか。
コノハ あ、そうか、ミドリさん初めてね。
ミドリ ええ。
トモミ 私も。去年はガキが熱出して来られなかった。
コノハ 何かやるの？
ハルト まあ朗読か寸劇辺りかな。
コノハ え～。寸劇は間に合わないよ、稽古とか。朗読は星祭りに残して置
きたいし。
ミドリ 腹踊りとかどうですかねえ。
コノハ 何それ？
ミドリ お腹に顔書くんですよ、絵の具とかで。そんで臍を口に見立てて。
コノハ 知ってます、腹踊りは。
ミドリ えっ？
ハルト 胸出すんですか？
トモミ いやいや、女版の腹踊りはね、こうやって胸をはれぼったい上脛に
見立ててね……

外への通路から物音。やや間があって、ふらりとリサが登場。

リサ ただいまあ～。
ハルト あんた…。
コノハ リサ…

思わず立ち上がっているハルトとコノハ。リサは派手な化粧に派手な

服。それも乱れるほど随分酔っ払っている。

リサ ただいまあ。
ハルト アンタねえ、今頃の面下げて……
コノハ 待って。
ハルト コノハさん…
コノハ アンタだったのね…今夜のスペシャルゲスト。
リサ なんの事ですか？ コノハのお姉さん。
コノハ (歩み寄って) お帰り。ねえ…
トモミ あ、そうか、貴方……
リサ (ミドリに歩み寄り) 新入りさん？
ミドリ あ、はい…
コノハ ねえリサ…

ツカツカと椅子に座り、ガツガツ食べ出すリサ。走り去るコノハ。

ハルト (リサに) ちょっと待ちなさいよ。
トモミ ハルトさん。
ハルト 何？
トモミ いいんじゃない。サイコも言ってた。残しておけって。
ハルト あ……でも。
サイコ 雨降ってきたわよ。

バスタオルで体と手を拭きながら登場するサイコ。一瞬箸を止めるが
構わず食べ出すリサ。

ハルト サイコさん…
トモミ あれ…でもあんた、トイレって…

ツカツカとテーブルに歩み寄るサイコ。

サイコ お帰り。
リサ (手を止める)

サイコ 冷めても美味しいでしょ？

暫しの間。再びガツガツ食べだすリサ。ゆっくり椅子に腰掛け、しあわせそうに眺めているサイコ。ゆっくり暗転。

【SCENE／2】 唸るようなセミの声。舞台明転すると、舞台上にハルトとミドリ。ハルトは壁を拭き掃除している。ミドリはテーブル上のノートに向かって何やら苦戦している。

ハルト なにか飲む？

ミドリ ……………

ハルト ミドリさん？

顔を上げ、肩を大きく回すミドリ。肘を曲げたタイプで逆回転も。

ハルト …大魔人。

ミドリ え？……ああ、ハルトさん。

ハルト 大魔人ストレッチ。

ミドリ ああ……私、そんなになってました？

ハルト なってたなってた。

ミドリ すいません、無意識だったんですけど…

ハルト 何か飲む？

ミドリ ああ、いえ…ありがとうございます。

ハルト 上手く合わないの？

ミドリ えっ？

ハルト 会計収支。

ミドリ ああ、いえ、これはちょっとした雑文って言うか…

ハルト そっか、計算はエクセルだったモンね。

ミドリ ええ…ちょっと知り合いにエッセイ頼まれてて。

ハルト へえ。

ミドリ って言っても小さな業界専門紙ですから多分にボランティアなんだろうけど…ああ、もちろん入金あったらちゃんと7割入れますので…

ハルト ああ、はいはい。

ミドリ この後「ことのは会」でしたよね。

ハルト うん。後……10分ぐらいかな。

ミドリ そっかあ…じゃあ、残りは今夜だな…

ハルト ねえ、星祭りは予算残ってる？

ミドリ ああ、まあまあじゃないですかね。花見の時の赤字は何とか先月埋め合わせてますし…

ハルト やっぱ大変だった？

ミドリ 音響器材のレンタルがね…APでしたっけ？

ハルト PA。

ミドリ ああ、それぞれ。なにぶん当初の予定になかったんで。

ハルト まあ、盛り上がったけどね。

ミドリ でも、サイコさんの石川さゆりは泣けましたねえ。

ハルト まさか歌うとはねえ。初めて聞いたよ、私も。

ミドリ トモミさんの腹踊りも凄かったけど。

ハルト まさかあそこまでやるとは。村の長老たち喜んじゃって。

ミドリ でも、やっぱ圧巻はリサさんだなあ……

ハルト …まあ、現役だから…

ミドリ やっぱオーラですよ。あんなにメイクと衣装で誤魔化しても、おばちゃん連中話題にしてみましたよ。テレビの誰それにそっくりだって。

ハルト ……そうね。

ミドリ あ、私、また地雷踏みました？

ハルト ……別に。

ミドリ 何かすいません。

ハルト あ、でもさあ。

ミドリ はい。

ハルト 今の表現は、ちょっとNG。

ミドリ えっと……

ハルト 私のダチがね。地雷で両足なくしてるのさ。海外のボランティアで。

ミドリ あ…

ハルト まあ本人もね、最初はカッコ付けで撤去してたって言ってね、足亡くしてから本気で目覚めたってね。今の方が精力的に取り組んでるのね。

ま、だから、いいんだけど。その、一応ね。

ミドリ いえ…その…良くない表現です。すいません。

ハルト うん。……ホント、ここだけでもクーラー入らないなあ？

しばし無言の2人。汗を拭き、手風を顔に送るハルト。

ハルト 私もね。本質的に合わないタイプなのか、やっかみなのか自分で判らない部分もあってね。やっぱタレントには違いないんだし。

ミドリ ああ、リサさん？

ハルト 昔憧れてた時期あってさ、芸能界とかさ。何であんたのような恵まれた奴を、ココが受け入れなきゃとかね。

ミドリ ああ。

ハルト ま、だからこそ、つてのも判らんでもないんだけど。あの子はあの子だし。

ミドリ 持ち逃げした額は多かったですか？

ハルト 収穫のきっかり1ヶ月分。まあ、彼女のギャラにしてみれば少ないでしょうね。

ミドリ へえ〜。

ハルト それより痛かったのが情報のリークですね。お陰で地元で騒がれて、ココに引っ越さなくちゃならなくなった。

ミドリ え、そうだったんですか？ じゃありサさんの逃亡騒ぎってココじゃないんですね。

ハルト 3年前の雪見会の夜。忘れもしないよ。

ミドリ そうなんですかあ、ほら、リサさんが戻ってきた時、「ただいま」「お帰り」って感じだったから、私てっきり……

ハルト 詫びの一言もないからね。

ミドリ ああ、ええ…

ハルト 時々教祖の考えてる事が判んなくなる。

ミドリ ハルトさん……

暫しの間。拭き掃除を続けるハルト。

ミドリ (明るく)でも、今のもNGですよ。

ハルト えっ？

ミドリ ルールその④「ココが宗教団体のように意識してはならない。ココ

はいかなる教団にも属さない」。

ハルト え、私今「教祖さま」って言った？

ミドリ 「さま」はついてなかったけど。

ハルト やっべえ…ついつい出ちゃうんだよね。

ミドリ 昔の習慣って奴ですよ。

ハルト 今でもカラダうずくよ。真っ白な大きな布とか見るとさあ。

ミドリ ああ、畑で使う奴？

ハルト …全てを覆い尽くしたくなる。

ミドリ …確か電磁波を跳ね除けるんですよ。

ハルト ほら、サイコさんの論理にちょっと共通する所あるのよ。「宇宙も脳みそも同じである。全ては電気で動いている」。

ミドリ ああ、なるほど。

ハルト どうか今のはご内聞に。

ミドリ はいはい。いつも食事会では目こぼししてもらってますし。

ハルト …少しは食べれるようになった？ 肉。

ミドリ …なかなか難しいですねえ。あの時は行けると思ったんだけど…

ハルト その後どうなん？ 元亭主は。

ミドリ ええ、それがですねえ……

リサ ちーっす。

外からの通路よりリサ。手には市販のお菓子と雑誌を持っている。

ミドリ おはようございます…。

リサ うっす。

椅子に座り、スナック菓子を食べながら雑誌を見るリサ。

ハルト 農場の方は順調ですか？

リサ うん。若い子がガンガン動いてくれてね。予定より1時間も早く上がっちゃった。

ハルト そういう指導力はさすがですね。

リサ ま、一応タレントやってますから。

ハルト なるほど…。

リサ (ミドリに) 食べる？ 新商品。

ミドリ あ、いえ、私は…

ハルト で、なんでココに？

リサ サイコさんがね。今日からこっちにも参加しろって。

ハルト ……そうですか…

リサ (ミドリに) なんかゲームするんでしょ？

ミドリ ええ、言葉を使って…

リサ ふーん… (空気読み取り) やっぱ迷惑だよねえ、皆にとってはさあ。

ミドリ いえ、私は…

リサ よし。やっぱよすわ。(ハルトに) サイコさん来たら適当に言い訳しておいて。

ハルト ……

去りかけるところに、外からコノハ。

コノハ (明るく) ねえ聞いてよ、新しく作った登り窯からさあ…あ、

リサ (恭しく) おはようございます。

コノハ …おはよう。

リサ では失礼します。

コノハ …待って、何でココに？

ハルト サイコさんから呼ばれたそうです。今日からこっちに参加するようになって。

コノハ そう…

リサ でも、やっぱ退散しようかなって。お姉さんも困り顔だし。

コノハ 私が消えるから。

ハルト えっ？

コノハ (ハルトに) ゴメンネ、ちょっと釜の方でトラブル出ちゃったから…じゃあ、そういう事で…

ハルト ちょっと、コノハさん。

振り切るように場を後にするコノハ。それを追うハルト。

リサ …昼ドラみたいよねえ。

ミドリ えっ？

リサ 「振り切るように場を後にするコノハ。それを追うハルトの図」…でしょ？

ミドリ ええ、多分。

リサ (椅子に戻り) タメ口聞いてよアンタぐらい。どうせ年上だろうけど。

ミドリ あ、はい。でも入所は私の方がずっと遅いし…

リサ ほら食べて。動物性のモノは一切使ってないからさ。

ミドリ はい。

リサ 聞いたよ。元亭主がストーカーなんだって？ ちょうど私がココに来た夜なんでしょ？ 美味しい？

ミドリ ……美味しい。

リサ でしょ。だいたいココって考え方が古いのよ。そもそもさあ…

ミドリ ちょっと言わせてもらうけどさあ。

リサ ん？

ミドリ ああ、ですから、リクエストにお答えして。

リサ …ああ…どうぞ、続けて。

ミドリ 悪い子ぶってんじゃねえよ。見え見えなんだよ。タレントだか何だか知らねえけどよう。そっちさんの世界はそっちさんの世界で、いろいろ大変だろうって事ぐらい、皆ちゃんと察してるんだよ。判ってんだよ。それがなんだあ、お前と来たら。ココに来た以上、余計な照れとかポーズしてんじゃねえよ。もってえねえだろう、時間がさあ。それをさも「プライドが許さねえ」みたいに装いやがってさあ。小せえ小せえ。所詮は傷つかねえためだけの、甘えた防波堤だろうが。

リサ ……へえ。

ミドリ あんだよお…

リサ そう言われればそうかもね。

ミドリ んだとお…

リサ だいたいそれ、タメ口じゃないし。

ミドリ …え…あ、違いました？

リサ ほら、もっと食べて。

ミドリ ああ、はい、どうも。

食べるミドリ。見つめているリサ。

リサ プライドってだけじゃないんだけどね。
ミドリ えっ？
リサ ああ、いやいや。
ミドリ ……………でもホントに美味しいですね、これ。
リサ でしょ。そもそも考え方が古いのよ、ココって。有機栽培だとか、自作の…何だ？ ほら、あれ…
ミドリ 自作自演？
リサ そうじゃなくて、…自分で作って自分達で食べる……
ミドリ ああ、自給自足。
リサ それぞれ。いくら自給自足って言ってもさあ、所詮、完全には無理なんだから。むしろ……ほら、例えばね、この味付けを何とか分析してさあ、上手くパクって、でもジャガイモじゃなくてね、ウチの野菜で工夫して代用すれば、結構な収入源にもなるでしょ？
ミドリ へえ～。
リサ あ、内緒だよ。自分の功績にするんだから。
ミドリ (微笑んで) はい。
リサ で？ その後は音沙汰なしなの？
ミドリ えっと？
リサ だから元亭主。
ミドリ ああ、ええ…
リサ ただのカッコ付けか。
ミドリ まあでも、私、この前…そう、貴方がココに来たときね。話してて私、つい興奮してビンタ打ちしちゃったから、思いっきり。
リサ へえ～。復縁迫られて？
ミドリ よく覚えてないのね、それが。ビンタだけが強烈で、だってそんなことするの生まれて始めてだし。
リサ ふ～ん。
ミドリ それにね……
リサ うん。
ミドリ 誰にも言っていないんだけど、実は元亭主じゃないの。
リサ え？
ミドリ 籍どころか、向うには奥さんいるの。
リサ え、じゃあ、いわゆる不倫？

ミドリ 私が一番ウソツキなの。
リサ …それってサイコさんも？
ミドリ あ、そうかあ、貴方も嘘付きに付き合わせちゃったんだ、たった今。共犯者にしちゃったのね、強引に。
リサ 私は構わないけど……
ミドリ 多分、サイコさんはお見通しですね。言っても言わなくても。
リサ なるほど、確かに。……ねえ。
ミドリ 何？
リサ じゃあ、何で私に話したの？
ミドリ お返しかな。
リサ お返して……ああ。秘密のギブ&テイク？
ミドリ まあ、そんな感じ。
リサ ……あのさあ。
ミドリ 何？
リサ 一つだけ教えてあげようか。
ミドリ え、何？
リサ 今のがね、「タメ口」。
ミドリ えっ？
サイコ ひるちわ。

施設奥から入るサイコ。慌ててノートを片すミドリ。

ミドリ どうも。
サイコ (リサに) よう。ひるちわ。
リサ ひるちわ。
ミドリ え、何ですそれ？
サイコ 流行ってるんだって、都会で。女の子達の間で。
ミドリ ひる、ちわ？
サイコ ひるちわ。
ミドリ そうなんですか？
リサ うん。業界とか、渋谷とか。
ミドリ 本当ですかあ。
リサ ホントホント。有名な待ち合わせ場所なんか、もうこれ一色。

ミドリ ほんとかなあ…

サイコ なかなかいいんじゃない？ だって昼間の挨拶って、近しい言い方って難しいでしょ？ 「おはよう」とか「こんばんわ」に比べて。

ミドリ ああ…確かに。「こんにちは」ってどこか他人行儀ですよ。

サイコ 少し砕けて「ちわ」とか「うっす」にすると、今がお昼って感じがなくなる。

ミドリ それで「ひるちわ」ですか。

リサ 今や言葉の進化は渋谷の女子高生が管理してるんですよ。

ミドリ へえ～。

サイコ まだこれだけ？

ミドリ ええ、まあ、一度は来られたんですが……

リサ やっぱ居ない方がいいって、私。

サイコ コノハさんも来てた？

ミドリ ええ、新しい窯の出来がどうのって…

サイコ 貴方が抜けたら駄目よ。5人居ないと正しいデータが取れないの。

ミドリ …えっ？

サイコ あれ？

ミドリ いや、私は…

サイコ ゴメンゴメン、ちょっと手順間違えた。

リサ …大丈夫？

サイコ 平気、平気。ほら来た。

リサ えっ？

ハルト (登場して) 遅くなりました。… (奥へ) ほら…

入り難そうに入室するコノハ。やがて、意を決してサイコに向う。

コノハ すいません、実は例の新しい登り窯ですが…

サイコ 良い出来みたいね。お疲れ様。

コノハ ああ、いえ……

サイコ 見せてもらったわ。曜変天目とまでは言わないけど、器の中に宇宙が閉じ込められそうね。あれなら。

コノハ サイコさん…

サイコ え、試作品の話でしょ？

コノハ ああ、ええ…

サイコ 貴方が抜けたら駄目よ。5人居ないと正しいデータが取れないの。

ミドリ え？

ハルト 何？

ミドリ ああ、いえ…

コノハ …でも…

椅子を立つリサ。コノハに近づき手を取る。

コノハ え、

リサ 初めてなの。付き合っ。

コノハ ……うん。

隣あって座るリサとコノハ。他も空いてる椅子に適当に。

サイコ じゃあ、先週から始めた新しいチャプターね。(リサに) 目、通してくれた？ 資料。

リサ 言語中枢の刺激とそのテレパスの可能性。

サイコ うん。

リサ やり方も一通りは。

サイコ 上出来。じゃあ早速、前回の復習から行きましょうか。ミドリさんから時計の逆周り。

ミドリ あの。

サイコ 何？

ミドリ 目はつぶりますか？

サイコ そうね、まずは開けたままで。判った人は黙って手を上げましょう。

ハルト あの。

サイコ 何？

ハルト 私が時計になったとしてですnee。

サイコ はい。貴方が時計ですね。

ハルト 私は天井に居ますか？ 床に落ちてますか？

サイコ じゃあ…天井で。

ハルト 畏まりました。

サイコ どうぞ、ミドリさん。
ミドリ はい…じゃあ……ハ行、3文字、で…「川面」
全員 ……
ミドリ 第2ヒント、「点滅」
コノハ (挙手)
ミドリ どうぞ。
コノハ ホタル。
ミドリ ご名答。
サイコ じゃあ……ラ行、5文字、「小学生」
リ、ミ、コ (挙手)
サイコ どうぞ。
リ、ミ、コ ランドセル。
サイコ ご名答。
ハルト あ、そうか、くっそう。
サイコ ハルトさん。
ハルト はい。
サイコ 悔しがってはいけません。
ハルト あ、はい。
サイコ この前も言ったように、これは何かを競ったり、能力を見極めるモノではありません。余計な感情はノイズになります。
ハルト そうでした。
サイコ 皆さんも、言葉を発してるヒトの、意識にシンクロする感じを掴んで欲しいのです。何度も何度も続けましょう。じゃありささん。
リサ ……サ行、4文字、「泡」
ハ、サ、コ (挙手)
リサ どうぞ。
ハ、サ、コ せっけん。
リサ ご名答。
ハルト うっしやあ。
サイコ だからハルトさん。
ハルト ああ、すいません。
コノハ ……マ行、4文字、「見えない」
リサ (挙手)

コノハ どうぞ。
リサ 目隠し……。
コノハ ご名答……。
ハルト じゃあ…サ行、5文字………

以下、アドリブで1～2周続く。ヒントの言葉は、答えの単語を含まないのが大原則。

サイコ …「〇〇〇」
ハルト ご名答。
サイコ じゃあ、今度は目を瞑ってみます。手を挙げる代わりに言葉で知らせてください。出題者からやってくるイメージ作りに集中してください。
ミドリ ……タ行、3文字、「おにぎり」
リサ はい。
ミドリ どうぞ。
リサ タラコ。
ミドリ ご名答。
サイコ 随分違うでしょ？ 伝わり方。それを味わって下さいね。じゃあ…

出題するサイコ。アドリブ対応。次にリサの出題。アドリブ対応。

ミドリ …「〇□×〇」
リサ ご名答……。
コノハ (ゆっくりリサの手を握る)
リサ ! (目を開けコノハを見る)
コノハ (目は瞑ったまま) タ行……4文字……
サイコ 手のひら。
リサ (目を閉じる)
コノハ (手を放し目を閉じ) ご名答…
サイコ あ、ゴメンゴメン。ノーヒントで答えちゃった。
ハルト すごい。
サイコ 続けて。
ハルト あ、はい……

ハルトの出題。アドリブ対応。ただし出題の途中で目を開け、リサを
そしてサイコを見詰めているコノハ。参加していない。

ハルト ……正解。あ、いや、ご名答。
サイコ 皆さん、ちゃんと目は閉じてますか？
ハ、ミ、リ はい。
コノハ ！…（目を閉じる）

ミドリの出題。アドリブ対応。

サイコ じゃあ目を開けて。今度は目は閉じたまま、横の人と手を繋がます
ね。いいですよ？ コノハさん。
コノハ …ええ、はい。
サイコ 私から4つ続けて出題します。ラ行、5文字、「ケッフェル」

この辺りで下手から静かにトモミ。静観を決め込む。

コノハ …はい。
サイコ どうぞ。
コノハ レクイエム…
サイコ ご名答……

なぜか一人、目を開き、ゆっくり立ち上がるサイコ。

サイコ （やや強い口調で）ア行、5文字…
全員 （一瞬ビクンとして）！…ウシロユビ……
サイコ ご名答。（視線をミドリに）サ行、4文字……
ミドリ （より強く体動き）！……サツジン。
サイコ …ご名答（ゆっくり座り直し、目も瞑り、穏やかに）じゃあ最後ね。
ラ行、5文字、「そのアナタ」
トモミ ……来客？

思わぬ声の方向に目を開ける皆。サイコ、先に振り返り、

サイコ ご名答。
ハルト あ、いつの間に。
トモミ …お邪魔してます。
サイコ いらっしやい。じゃあ、今日はココまで。お疲れ様。
全員 …お疲れさまでした…
リサ …じゃあ、もういいのかなあ…
サイコ うん。また来るのよ。
リサ はい…（ミドリに）行こ。
ミドリ えっ？
リサ さっきの続きも聞きたいし。
ミドリ ああ……はい…
リサ …じゃあ、お先です。
ミドリ あ、じゃあ…すいません…

足早に去るリサ、追って去るミドリ。コノハ、ゆっくり立ち上がる。

コノハ …さてと、じゃあ私も…
サイコ ゆっくり見せてね。アナタの曜変天目。
コノハ …はい。

平静を装い下手へ去るコノハ。

ハルト （トモミに）私は去りませんからね。
トモミ （サイコに）何かゴメンネ…邪魔しちゃった？
サイコ 全然。ずいぶん久しぶりじゃない。
トモミ うん。夏はいろいろ大変なのよ、子供がらみがさ。
サイコ そっかあ。夏休みかあ。
トモミ なかなか来れないからさあ、今日はちゃんと喋ろうと思って。
ハルト ちょっと先にいいですか。
サイコ どうぞ。
ハルト リサさんですけどね。また来週、外出願いが出ますが…
サイコ いいんじゃない？ ココ、牢獄でもないし。
ハルト でも他の者への示しが…タレントだからって特別扱いし違い過ぎ

るのも…

サイコ 助かってるんでしょ？ お金とか。

ハルト それは、まあ、確かに……

サイコ いいからいいから。ひるちわ。

ハルト …何ですそれ…

サイコ （トモミに）で？

トモミ ああ、うん。

サイコ ここを紹介する件ね。貴方の文章で。

トモミ うん。

ハルト えっ？

トモミ お願い。絶対悪いようにはしないからさあ。

サイコ そおねえ……

トモミ 私はね、何とか取り戻さなけりゃって思ってるのよ。一部のカルト集団が、「ア」の付くヒッピーオヤジが撒き散らした大きな罪。それによって他の全ての精神活動が白い目で葬り去られた。知り合いの宗教学者はつるし上げを食らって大学から追い出され、極めて善良なヨーガの教室がすべて廃業に追い込まれた。（ハルトに）あなただっって判るでしょ？ 同じ境遇の者として。

ハルト …ええ、まあ……

トモミ 毒薬の被害者の取材もしたよ。トラウマ、フラッシュバック、白昼ささやかな日常会話のキーワードで嘔吐してしまうほどの少女達。精神障害、PTSD。到底許されるモノじゃない。でもね、そんな取材を通じてなお私は思う。被害者やその周囲の人達の苦悩に等しく、同時に彼らが壊したものの。それが貴方たちの現状でしょ？

ハルト トモミさん…

トモミ 未知なるモノへの好奇心、現代科学では及ばない不思議なモノへの少年のようなみずみずしい好奇心は、彼らの愚行で抹殺された。それだけじゃない。病んでいる者達のココロ、オカルトも含んだ「科学領域では救えないものたち」の救いの場所さえ彼らは破壊した。

ハルト トモミさん。

トモミ 違うでしょ？ ココは。あなた達のルール。ココでの約束。十羽ひとからげにされたくないためだけの、予防処置じゃないでしょ？ ここでなされてる活動や生活は、もっと本質的な、皆に知らしめて余りある、そ

うすべき事柄でしょ？

ハルト ……

トモミ ごめん、何興奮してんだろ、私…

サイコ いいよ。

トモミ …え。

サイコ だから、いいって。

トモミ えっ？

ハルト サイコさん…

サイコ いいよ。好きに書けば。

トモミ …ほんと？

サイコ 昔からの友達でしょ？ 確かに貴方はメンバーじゃないけど、かけがえのない一人なのよ、私達のサークルに。私達の弛まない円運動に。

トモミ じゃあ、いいのね。ホントにいいのね。

サイコ いつになく慎重ね。

トモミ 判った。じゃあ、早速まとめるから、上がったら目を通して。

サイコ 了解。

ハルト サイコさん…

トモミ （去りかけて足を止め）あ、しまったもう一つ……ねえ、最近何かあった？ ココ。

サイコ （少し遠い目で）何かって？

トモミ 刑事がウロウロしてる。

ハルト えっ？

トモミ もちろん施設の外だけど、さっきもいろいろ聞かれて……

ハルト 何をです？

トモミ それがさあ…妙に口が重いよ。ただ何となく施設の概要聴くだけでね。

ハルト どういう事です？

トモミ 事件性が具体的じゃないのよ。何時起きた、何についてっていう聞き方をしてこない。

ハルト へえ…

サイコ 大丈夫大丈夫。

トモミ ならいいけど……あ、だからって前言撤回しないでね。むしろ誤解を払拭するためにも、ちゃんと正しく書くからさ。

サイコ 了解。
トモミ うん。……じゃあ。

下手に去るトモミ。安らかな表情のサイコ。

ハルト (見送り視線で) 大丈夫ですかねえ…
サイコ また増えるよ。
ハルト えっ？
サイコ 眉間の皺。
ハルト え……あの。
サイコ 何？
ハルト 私、やっぱ暗いですかねえ。
サイコ 暗いというよりは、怖い。
ハルト えっ？
サイコ 笑ってみて。
ハルト (いい笑顔)
サイコ 普通だと？
ハルト (やや怖い)
サイコ も一回。
ハルト (いい笑顔)
サイコ 大丈夫大丈夫。
ハルト (いい笑顔のまま) はあ…

コトリと暗転。季節は夏から秋に。

【SCENE／3】 虫の音。明かりが入ると深夜の薄暗い食卓。テーブルの辺りに人影。舞台の一部を絞った明かりが移動する。どうやらテーブルにいる何者かがペンライトで壁を照らしているらしい。やがて下手から人の気配。ペンライト消える。

ミドロの声 ヤミナベ。
コノハの声 …ああ、私、私。
ミドロの声 …ヤミナベ。

コノハの声 私だって…明かり点けて。

後から入って来た人影、壁のスイッチに進み、再び止まる。

ミドロの声 …ヤミナベ。
コノハの声 だから…ヤミゴメ。

スイッチに手。舞台明るくなる。テーブルにコノハ。ミドリが壁際に立っている。暫し見つめ合う間。

コノハ だからねミドリさん。
ミドリ あ、はい…
コノハ こういう時はいらんんじゃないかなあ、合言葉。
ミドリ え、そうなんですかあ？
コノハ ついさつき打ち合わせたばかりだし。
ミドリ はあ…
コノハ …なんか言葉の意味わかんないし。
ミドリ そうですか？ 結構好きなんですけど。
コノハ ヤミナベ。
ミドリ ヤミゴメ。…ほら、そこはかたく隠密っぽいし。
コノハ そうかなあ。
ミドリ いや、でもですねえ…
コノハ ああ、ゴメン。合言葉の事はまた今度ってことで…どうだった？
ミドリ ええ、お連れしました。(外への通路に) どうぞ…。

無言で登場し2人を一瞥し、椅子に座るトモミ。

コノハ ゴメンネ、こんな時間に。
トモミ まあ、穏やかじゃあないわね。まるでクーデターでも起こそうかって時間帯よ。
コノハ、ミドリ (顔を見合す)
トモミ ちょっと、冗談でしょ？
コノハ ミドリさん。

ミドリ はい。
コノハ 悪いけど、寢室の方に待機しててくれない？
ミドリ ……（不満気）
コノハ （任務の重要性を強調して）誰か起きたら上手くこっちに伝えて、
その後はこちらで誤魔化すから。
ミドリ はい。じゃあ…

隠密のように、素早く無音で宿舎側に去るミドリ。

コノハ 何か飲む？
トモミ ……いらない。
コノハ そう。

テーブルの上にあったアルコールをコップに注ぎ飲むコノハ。

コノハ 執筆の方はどう？ 進んでる？
トモミ 8割方ね。それもあって随分来れなかったけど……どういう事？
何が起きてるの？
コノハ まだ何も起きてない……少し違うな、まだ全ては水面下。貴方の冷
静な判断を聴きたいの。
トモミ やっぱ頂戴、それ。
コノハ ああ、うん。

もう一つのコップに液体を注ぐコノハ。

コノハ ああ、何？ 最初の遠慮は毒物への警戒？
トモミ ……別に。

くっと半分ぐらい飲むトモミ。

コノハ 収穫祭を兼ねた月見会が来週の火曜。皆忙しくしてるわ。リサの外
泊出張が増えて、ハルトは眉間の皺を増やし、最近ではサイコさんまで、
いない事多いしね。

トモミ 今はどうしてるの？
コノハ ぐっすり就寝中。
トモミ 大丈夫なの？ こんなコソコソしてて。
コノハ 私、思うんだけど、彼女、起きてる時周りの全てに全神経注いでる
わけでしょ？ だからその分睡眠は極度に深いよね。「不可侵の眠り」っ
て感じで。多分マグニチュード8までは大丈夫。
トモミ なるほど、つまり外出の時より安心って判断ね。
コノハ 起きてる時は神出鬼没。いつひょっこり現れるか、凡人には判らな
いし。
トモミ （微笑んで）変なの。
コノハ 何が？
トモミ 知ってる？ あんたがリサを語る時の嬉しそうな表情。今だって
…とても謀反を起こそうって人間のそれじゃあないよ。
コノハ ……
トモミ ま、せっかくだから話ぐらい聴くけどさ。
コノハ うん……そうか、子供寝てんだよね、家で。
トモミ そっちは大丈夫。もう小学生だし、眠りの深さに関してはサイコと
子供は同等かもね。
コノハ なるほど。
トモミ で？
コノハ うん……ミドリさんの彼氏が行方不明なの。
トモミ ああ、元亭主？
コノハ それが実はミドリさんの脚色でね、実は妻子持ちの不倫相手。
トモミ へえ～、大胆。え、でもいつから？
コノハ 東京で受付嬢やってた時かららしいんだけど詳しくは……
トモミ ちゃうちゃう。行方不明？
コノハ ああ…それがね、ほら、春の食事会。あんたも来てて、リサが3年
ぶりに戻ってきた。
トモミ ああ、はいはい。門の脇まで来てたって……え、じゃあその日以
来？
コノハ サイコさんが途中で席を立ったでしょ？ トイレとか言って。
トモミ そうだっけ。
コノハ 暫くしてリサが酔っ払ってやって来て、その後でサイコさんが。

トモミ ああ、トイレ行ってたはずなのに、なぜか雨に濡れた感じで……

コノハ 裏口から出れば門まで近いでしょ？

トモミ え、ちょっと待って、ついて行けない私……え、じゃあ……

コノハ 一昨日また刑事がやって来て、ミドリさんにいろいろ聞いていったらしくてね。

トモミ ちょっと待ってよ、サイコを疑ってるの？

コノハ どう思う？

トモミ だって……もう少し。

コノハ ああ、はい。

トモミのグラスに液体を注ぐコノハ。

トモミ ……動機は何よ。

コノハ あの人独特の価値観。ミドリさんを苦しめる対象を排除する。

トモミ それは今考えた。そうじゃなくてアンタさ。

コノハ えっ？

トモミ あんたがサイコを疑いたい動機。

コノハ トモミさん……

トモミ サイコは自分を受け継ぐ者として、リサを選び育ててる。それは端から見てても明白よ。つまりは……嫉妬？

コノハ ……それも大きな一つ。否定は出来ないな。

トモミ …素直じゃない。

コノハ リサを見てると落ち着かない。自分らしくいられない。彼女の気まぐれな一つ一つの仕草が、私を傷つけ、私を癒す。2度と顔を見たくない。一時も離れていたくない。

トモミ 重傷ね。

コノハ 書いてもいいわよ。本に。

トモミ 考えとく。

コノハ それだけじゃないの。とてもいい作品が出来るの。

トモミ …ああ、焼き物とか？

コノハ 怒りや悲しみの直後に生まれるの。この環境でないと生まれないイメージ。守りたい気もするし、次に進めてさらに見極めたい気もする。

トモミ リサと2人で暮らす。

コノハ ……よく判らない。

トモミ ふーん。

コノハに飲み物を注ぐトモミ。その後で自分にも。飲む2人。

トモミ やぶへびにはならない？

コノハ どういう事？

トモミ 行方不明のための具体的作業。もし万が一、あなた達の仮設に乗ったとして、酔った振りしたりリサも一枚噛んでいる可能性。

コノハ えっ？

トモミ 冗談よ。アンタ達の悪乗りになんかちょっと付き合ってみただけ。

コノハ うん…

トモミ ねえ、例のあれ、ことのは会だっけ？ あれはどうなの？

コノハ 順調みたい。次々とステップ進化してるし、目を閉じると誰からの信号が見分けがつくの。まあ、個人差はあるだろうけど。

トモミ テレパスになった気分？

コノハ ちょっと違うなあ、他者と自分が溶け合う感覚。意識を共有しながら、でも自分のポジションがくっきりしてる。安心してそこに居られる。

トモミ ふ～ん。

コノハ 言葉には出来ない快感。宗教とか超自然現象とかって事じゃないのね、全然。男とするセックスなんか比じゃないって感じ。

トモミ 「男とする」って辺りが微妙だけどね。

コノハ あ。

トモミ 行きつく先には何がありそう？

コノハ それは知らない。サイコはもっと高めたいみたいだけど。

トモミ 最初はサイコが誘導してた？

コノハ きっかけはね。でも最近では彼女なしでも高まれる。

トモミ ふ～ん。

コノハ だからアナタに入所してほしいの。

トモミ えっ？

コノハ ミドリさんの件も含めて、出来る限りココに参加してほしいの。貴方の存在が欠かせないのよ。私達の弛まぬ円運動には。

トモミ ああ、星祭りの朗読？

コノハ 「ちりぬるを、緑、最古の春と紅」

トモミ 紅（もみ）は紅葉のクレナイか。「緑、最古の春と紅」いやあ、たまげたよ実際。私も含めた6人の名前が、何だ？ しりとりで円になっていて、まして俳句になっちゃうとはね。

コノハ 貴方が加わってくればきっと全てが上手く行く。

トモミ う～ん、出版も最後で煮詰まってて、できればそう踏ん切りたいトコロなんだけどねえ…（携帯電話を取り出し）これがさあ…

コノハ 何？ 迷惑メールってやつ？

トモミ いや、そうじゃなくてね……

リサ あれ？

上手から寝間着姿のリサ。

トモミ …よう。

リサ ども。

コノハ 一人？

リサ ええ…

トモミ 寝たな、忍者は。

リサ え？

トモミ ああ、いや。

リサ …何です？

コノハ （#）取材の帰り道に寄ってくれた……

トモミ （#）実はちょっと忘れ物を……

リサ …へえ…

2人 なにもこんな深夜に……

顔を見合せる2人。ゆっくり座るリサ。

トモミ あんたこそどうしたの？

リサ なんか寝付けなくて……あ、いいなあ、それ。

トモミ まあまあ、どうぞ……これいい？

コノハ ああ、うん。

コノハの空きグラスにアルコールを注ぐトモミ。リサに渡す。

リサ 何か変なの。

コノハ ……ねえリサ。

リサ 何？

コノハ 貴方と出会ってなかったら、私はもっと平安だったと思う。もう少し幸せだったかも知れない。でも、貴方の居ない世界なんか、今は考えられない。愛してる。

リサ …うん。それは知ってる。

コノハ …酒の力は偉大だ。じゃあ、寝る。

リサ うん。

下手に去るコノハ。さらにコップを傾けるリサ。

トモミ お邪魔虫。もしくは必要悪なデバカメ。

リサ なにも人前でねえ…

トモミ 分ってるくせに。

リサ えっ？

トモミ アルコールの助けだけじゃないでしょ？ 第3者がいて、初めて素直に話せるタイプでしょ？ コノハさんは。

リサ ああ、確かに。

トモミ 逃亡の原因も同じ？ 3年前の。

リサ まあ、それだけじゃないけど…どうにもならない事ってあるでしょ？

トモミ それは…絶対量の話ね。

リサ モーション掛けたのは私だし、今でも好きには変わらない。でも、それと相手の大きさに応えるのは違うでしょ？ 無責任にそんな事できないでしょ？ 抱え切れないのって不安でしょ？

トモミ 好きだからこそ誠実でいたい。

リサ …そこまでは愛せない。

トモミ 分ってると思うよ、あの子も。

リサ ホント、酒の力は偉大だわ。

トモミ （微笑んで）さっさとガキでもこしらえりゃあいいのに。

リサ えっ？

トモミ ああ、ゴメンゴメン。さ、まあまあ、もう一杯。

リサ (微笑んで) なんか私、取材テクにはまってる？

トモミ まあまあ。

リサに酒を注ぐトモミ。自分にも注ぎ足す。

トモミ ねえ。ちょっとチクリになっちゃうんだけどさあ。

リサ 何？

トモミ ミドリさん居なかった？ アナタがココに来る前。

リサ ううん。ベッドも空だった。コノハさんのもの。それで2人ココかと思
って来たんだもん。それが何？

トモミ サイコは？

リサ ぐっすり寝てた。

トモミ そう。

リサ ミドリさんはトイレじゃない？ 最近また激しいから吐き戻し。

トモミ そうなんだ…脱ベジタリアン？

リサ 無理することないのにね。

トモミ ふ～ん。

リサ これは書かないで欲しいんだけどさ。

トモミ 合点承知。

リサ ほんとかなあ。

トモミ 大丈夫。最近多いから、書けないネタ。

リサ うん。…実はね、どうも数値が合わないんだ。

トモミ 「ことのは会」のデータ？

リサ ううん。収入源と支出の割合。あるいは労働力のついで。

トモミ へえ…

リサ ああ、ミドリさんを疑ってるんじゃないのね。でも、なんて言うか、
操作の仕方がね、多分ココの幹部連中しか可能じゃないレベルで…

サイコ よるちわ…

宿舎側から寝ぼけて登場するサイコ。反射的にテーブルの下に隠れる

トモミ。サイコフラフラと椅子に座りテーブルにうつ伏せる。ゆっくり
首の辺りに触れるリサ。

リサ …大丈夫、完全に眠ってる。

トモミ 分るの？ それで？

リサ ちょっとしたコツね。脳細胞への血管の様子。

トモミ へえ…かなり見直しました。

リサ 私ね。40になったら大学に行くの。タレントやりながら。夢は歌っ
て踊れる心理学教授。

トモミ これまたスcoopだ。

リサ んでね、結構心配なんだ。

トモミ (視線から読み取り) サイコ？

リサ もしかしたら脳内に血瘤があるかも知れない。

トモミ えっ？

リサ 症例にあるの。脳の一部に良性の血瘤、つまりコブみたいな物ね。そ
れが脳の一部を圧迫し、妙に鋭くなったり、予言めいた発言をしたり…

トモミ まさか…

サイコ (寝言で) だめよ皆。いつも言ってるでしょ。話し出した事は、最
後まで言わなきゃ…

リサ …ねえ。昔はどうだったの？ 同級生なんでしょ？

トモミ うん…まあ、でも高校の2年間一緒だったただけだからなあ…

リサ 当時から鋭かった？

トモミ うん。確かに不思議なオーラ出してたよなあ。当時から嘘が大嫌い
でね。ゆえに親身な友達もなくて…私とは不思議とウマがあったんだ
けど、そういう私もちゃっかり他のグループに入ってたし…そういう意味
では負い目もあってね…

リサ 負い目？

トモミ 詳しく覚えてはないんだけど、卒業近くになって電話が頻繁になっ
てきてね、深夜とか、ああ、その頃私、生意気にも下宿だったんだけど…
わざと留守電まで放っておいて「ああ、サイコか。後にしよう」ってね…
その場で出られるのに…見えないトコで結構冷たくしてた気がする。

リサ ふーん。まあ私も、似たようなことあるけど、今でも。

トモミ んで、高校卒業したら忘れちゃって、彼女は海外に行ったらしくて
ね。で、再会したのが2年前。ココに移って来た後ね。駅前でばったり。

リサ じゃあ…私の騒動が、2人を引き合わせたわけか。

トモミ ああ、確かに。

リサ （ゆっくりサイコの髪をなぜ）この眠りの深さもね。症例に一致するわけさ。

トモミ そう……。

リサ いつも集団の中心にいる負担、そして空しさ。

トモミ そっかあ……（携帯を取り出し）ねえ、これ何とかならない？

リサ え、修理ですか？

トモミ ちゃうちゃう。圏外でしょ。ここの高原全域。

リサ ああ、人里離れてますからねえ。

トモミ これがネックなんだよなあ。

リサ えっと？

トモミ やっぱ子連れで預けたりするとき。緊急連絡とか多いしさ。

リサ …はあ。

トモミ 3日が限界。声聞かないとおかしくなちゃうんだよねえ。

リサ へえ〜。大好きなんですね、お母さんが。

トモミ 違うよ。私が。

リサ えっ？

トモミ あ、こっちの壁紙に変えて見ようっと。

リサ ……（微笑んで）へえ〜。

メール操作をするトモミ。見守るリサ。ゆっくり暗転。秋から冬へ。

【SCENE／4】 虫の音が消えると、遠くで拡声器による警察隊の撤去命令の声。群集のノイズも多く言葉は聞き取り難い。強制撤去までの時間や、裁判所の文章などを読み上げているらしい。明かりが入る。重い空気の中、互いに距離を取って佇むミドリとコノハ。

トモミ ゴメンゴメン遅くなって…

今までと雰囲気の違いで登場のトモミ。どうやら入所したらしい。

ミドリ ども…

トモミ …やっぱやってんの？ 予定通り。

ミドリ 既にハルトさんとコノハさんが終えて、今、リサさんが。

トモミ そう…「最後の晚餐ゲーム」ねえ。

コノハ 大丈夫だった？

トモミ ああ、うん。よもや保育園の節分行事と重なってるとはねえ。

ミドリ 「鬼は外、福はウチ」ですね？

トモミ なんかハマリすぎだよ。一層闘士がわくよ。取り囲んでる奴等に豆まいてさ。「福はこの中にあるんだぜ」ってね。通じないだろうけど。

コノハ （微笑んで）そうじゃなくて、ココまでの道中。検問とか。

トモミ ああ、何と言っても蛇の道はへびだから。昔の遊び場だから、抜け道ぐらいは周知してます。

コノハ なるほど。

ミドリ サイコさんとも来られたんですか？

トモミ うん。ついさっきそれ思い出してさ、裏手の抜け道歩きながら……一度だけ2人でハイキングに来たことがある。お弁当持って。もちろんその時も、全部彼女が拵えて。

ミドリ きっと無農薬だ。

トモミ うん。多分。

ハルト 失礼します。

外への通路よりハルト。眉間の皺は深くなっている。

コノハ どう？

ハルト 警察権力は時間を守りますからねえ。不動のままです。ただ地元住民やマスコミ、野次馬が今にも策を壊さん勢いで…むしろ警官が体を張ってガードしています。

コノハ 皮肉なモンね。3年前と同じじゃない。

ハルト あんなに好意的だった小井元ファームの親父さんも先頭に立って、

コノハ そう…

ミドリ あと、20分ですねえ…

トモミ 他の女の子達は？

ハルト ええ。基本的には自由意思に任せてます。取り囲んでる連中は、ピラ捲いてますからね。強制捜査のリミット前に、自らこの施設を出てきた者には、大きな恩恵が付いてくるって。

トモミ 一線を引いてるわけね。宣告した時間の前なら「被害者」として扱

う。今のウチなら「保護」として迎えてくれるって寸法ね。んで、後々には重要参考人に格上げする。

コノハ で、どうなの？

ハルト はい。ほとんどが荷物をまとめて出て行きました。中には私の手を取って、泣きながら許しを請う子もいましたけど…

コノハ そう…

ミドリ あと20分…

ハルト いえ、正確には17分と39秒、37秒、35秒、34、33……

コノハ ちょっとハルト、

サイコ およしなサイコ。

上手通路よりサイコ。いつも通りの装いで笑っている。

ハルト サイコさん……

サイコ どうかなあ？ およしなサイコ。ゴメンなサイコ。

ハルト はあ……

サイコ 本当は、私に言って欲しいんだけど…

ハルト ああ、なるほど…

サイコ (ミドリに) 椅子を勧めてみて。

ミドリ えっと……お座りなサイコ。

サイコ そうそう、そんな感じ(実際に座る)…なんか、口がすっかり気に入っちゃって……よう。来たなあ、新人さん。

トモミ どうも遅れまして…

サイコ 今どこまで行ってる？

コノハ あと1人です。今リサさんが…

サイコ そう、じゃあ……お入りサ。

全員 えっ？

リサ どうも…

キッチン側からリサ。手に小さな小瓶を持っている。

サイコ あ、じゃあそれはココに入れて。誰にも見えないように。

サイコの持っていたビニール袋に手の中の「何か」を入れるリサ。
サイコ じゃあ、ここからは新人さんがホスト役ね。(トモミに袋を渡し) ほうい。

トモミ えっと…

サイコ 各々方が入れ終わった毒薬の瓶を、ココに回収する任務です。決して誰にも見えないように。

トモミ ああ、はいはい。

サイコ 返事は一回。

トモミ ああ…はい。

サイコ それで…ああ、そうそう。

おもむろに、ポケットから何かのスプレーのような物を取り出すサイコ。ビニール袋の中に「ブシュー」っとひと吹きして、シャコシャコと袋を振る。

サイコ シャカシャカシャカ。お釈迦様。

コノハ それは？

サイコ 私が開発した「指紋消しちやうスプレー」ですね。

コノハ へえ…

サイコ これで誰がどの瓶を使ったかが判別できなくなる。あ、そうかあ、まだミドリさん残ってたっけ。じゃあ、後でもう一度。

ハルト 本格的ですねえ…

サイコ じゃあ、最後の一つ…どうぞ。

ポケットから新しい小瓶をミドリに手渡すサイコ。受け取り、意を決めてキッチンに向うミドリ。

サイコ ゴメンネ、今日は監視役に徹してね。

トモミ それはお気遣いなく。新入りですので。

サイコ してそのココロは？

トモミ …私の本が出版されて半月。責任の一端は感じて。でも、貴方は止めなかった。こうなるって分っていたんでしょ？

サイコ だから、誰の所為でもないってばあ。

トモミ 読めてたのね？　こうなるって。それであえて出版も許可をした。

　　そうなのね？

ハルト トモミさん…

トモミ いいから言わせて。

サイコ 私は予言者ではありません。

トモミ じゃあ何これは？　…悪ふざけも程度問題じゃない？　最後の晩餐に毒殺ゲームってのはあまりにも。

ミドリ トモミさん…

トモミ アイロニーを込めた余興？　「最後にしろ」って言ってるのは柵の外の連中でしょ？　乗っかることないじゃない。

サイコ ありがとね。

トモミ えっ？

サイコ そう言ってくれるの貴方だけよ。それだけでもメンバーに入ってもらった価値があります。

トモミ …なによそれ…

サイコ 毒薬は…本物かもしれないし、お砂糖かも知れません。ほら、あるでしょ？　ヨーグルトなんかにかけるサラサラの。

ハルト ああ、パウダーシュガー…

サイコ それぞれ。同じ様なモンですから。お砂糖でも毒薬でも。

ハルト でも……

サイコ シュイクスピアの時代はね。どこにもカコにも毒が塗られてましたとき。ベッドの脇のササクレにも、庭の綺麗なバラの刺にも、椅子に仕掛けたマチバリの先、専用の爪楊枝に専用のコップ、強いてはお毒味が終わった後の食材にまで、こっそりと。

全員 ……

サイコ 本質的には同じですから。死んでいても生きてても。

全員 ……

　　キッチンからミドリ。視線を浴び、一瞬の戸惑い。

ミドリ 終わりました…

サイコ じゃあ、そこへ。

トモミの持つ袋に小瓶を入れるミドリ。スプレーするサイコ。

サイコ 皆さんころおきなく仕込めましたか？　では、タイムリミットです。振って。

トモミ ああ、はいはい。

サイコ 返事は一回。

トモミ （ゆっくり振る）

サイコ （上手く合わせて）シャカシャカシャカ。お釈迦様。

トモミ 似合わないわね、最後の晩餐には。

サイコ まあまあ。では、ミドリさんにリサさん。食事、運ぶの手伝って。

　　私一人だと、ココでまた毒を入れる可能性あるからさ。

ミドリ …はい…

　　キッチンに去るサイコ、ミドリ、リサ。

ハルト じゃあ私も、もう一回様子見てきます。

トモミ 気を付けてね。

　　外への通路へ去るハルト。黙してるコノハに近寄るトモミ。

トモミ どうしたの、ふさぎ込んで。

コノハ 別に…

トモミ （微笑んで）まさか、全部の皿に盛ったんじゃないでしょうね。

コノハ …それも考えた。

トモミ あんた…

コノハ でも何かが違う気がする。本質が分らない、このゲームの…

トモミ まだ疑ってるの？　サイコ。

コノハ えっ？

トモミ ミドリさんの彼氏の行方不明。

コノハ だって…この強制執行だってそうでしょ？　明らかに早すぎる。貴方の本のせいじゃない。だとしたら、やはりあの行方不明事件が根底にあって、捜査の動機になっていても不思議じゃない。

トモミ もしくは内部に告発者がいた可能性…

コノハ えっ？

サイコ 失礼つかまつる。

サイコを先頭に食器や料理を運びリサ、ミドリ。

サイコ さあさあ、皿を置く動作にも注目してね。ここで犯人の意図が見えたりするからね。

トモミ うわあ、上手そう。

リサ そうか、毒物混入には未参加でしたね。

トモミ ねえねえ、店出そうよ、儲かるって。

サイコ あんたそればかりね。…あれ？ ハルトさんは？

コノハ 外の様子を見てくるって。

サイコ う～ん、実に怪しいですねえ…

リサ そういうゲームなんですか？

サイコ まあまあ。

ハルト (下手から登場し) 戻りましたあ。

ミドリ 犯人はお前だあ。

ハルト えっ？

サイコ どうです？ 外の様子。

ハルト ああ、ええ……あれは小康状態って奴ですかね。ピタリとも動かないジュラルミンの壁が何重にも。午後の陽射しにキラキラ光って綺麗でした。嵐の前の静けさ、風前の灯火。

コノハ 不謹慎な上に、最後は不吉。

ハルト ああ、そうか。すいません。

サイコ (微笑んで) じゃあ皆席について。

おもむろにテーブルを囲む6人。

サイコ では、もう一度ゲームのおさらいから。このゲームの特徴は、キッチンに並べられたスープの皿は、その時点で誰がどれを食すか判別できない点です。人に盛った毒が自分に回ってくる可能性も十分ある。

トモミ 何かこっそり印を付けるとか、人参の位置で覚えるとか。

ミドリ トモミさん。

トモミ あ、失礼。

サイコ その辺は入念にチェックし、今し方も2人の立ち会いの元、盛り付けを変えました。

コノハ 本格的ですね。

サイコ ゆえに、自分の死を賭けての殺人しか成立しません。でも逆に、もしその人自殺を考えていたならば実に簡単。全員のスープに毒を盛ればいいのです。

リサ ああ、なるほど。

サイコ その言い回しも演技だったりするわけです。

リサ え？……ちょっと止めてよ。

トモミ ねえ、ホントに砂糖よね。パウダーシュガーよね。

サイコ (微笑んで) さあ。

トモミ 飛んでもないときに入所しましたよ、私は。

ミドリ それも演技のウチだったりして。

トモミ ああ、そうか……

サイコ (手をパンパン) 手を合わせてください。

手を打つ皆。沈黙の後、ゆっくり立つサイコ。皆に少し緊張。

サイコ …散り散りになりましょう。バラバラになりましょう。春には花見、夏になったら星を見て、秋にはお月見、冬になったら雪見会。そんな風に過しましょう。これからはバラバラだけど、みんなで空を見上げましょう。

ミドリ サイコさん…

サイコ …悲しんではいけません。誰かを怨んではいけません。例えば私達がこうして6人で会えたのはね、ちょうど100年前の今夜、道端で和尚さんが転んだからかも知れません。あれは50と数年前、たまたまアメリカの戦闘機が、隣のビルを爆撃したからかも知れません。思い出せば8年前、眠ってる間、知らない内に、見知らぬ虫が私の頭に、卵を産みつけたからかも知れません。

トモミ サイコ…

サイコ しかしまあ、あれだよ。言い出せば切りがない。所詮この世は「わらしべ長者」の因果率。ゆえに終わりと始まりも繋がっている。ナザレのイエスは気取り屋で、パンが自分の一部と言ったけど、そうまで言わ

れちゃあ美味しくない。大丈夫よ。毒薬の中身はお砂糖です。少し甘かったら貴方の負け。さあ各々方。お腹いっぱい食べましょう。(手を二回打って) いただきます。

全員 (手を一回打って) いただきます。

サイコ じゃあ、皆で一斉にスープから。いい? ……せーのお。

意を決して飲む全員。暫しの間。

ハルト 上手い。

コノハ うっ…

全員 えっ?

コノハ ああ、大丈夫、(咳き込んで) ゴメン、違う違う、なんか唐辛子噛んじゃったようで…

咳き込むコノハ、慌てて水差しの水をコップに注ぎ飲もうとする。

サイコ 飲んじゃダメ。

コノハ えっ?

サイコ 皆、下がって。

反射的にテーブルから離れる5人。ゆっくりコノハの飲もうとしていたグラスを手にするサイコ。

サイコ 大変残念なコトですが…

コノハ え?

サイコ どうやらこの中に、一人だけ裏切り者がいるようです。

リサ えっ?

ミドリ じゃあ…その中に…

サイコ とっても上手いやり方ですね。これなら誰かに必ず毒を飲ませられる。もちろん相手の選択は出来ませんが、何より自分に「当たり」が来たとき、辛い事だけ堪えれば命を落とすことはない。

ミドリ ああ、なるほど…

サイコ 「あなたがやりたい事を、今すぐ実行すればいい」

コノハ それって新約聖書の…

サイコ では、ちょっと飲んでみましょう。

全員 えっ?

勢いよくコップを口に持っていくサイコ。その刹那。

ミドリ 止めて。

コノハ ……ミドリさん?

ミドリ やめて、私じゃない、私は何もやってない!

ハルト どうしたの? 大丈夫?

ミドリ 私じゃない! …私は、私…! …ううん、私がやった…思い出した…

ハルト ミドリさん?

サイコ (ゆっくり近寄り) 入所した時から分っていたよ。貴方がココに来た使命。そして貴方の病気。かわいそうなミドリさん。

ミドリ 私……私が殺した。

トモミ えっ?

サイコ 定期的な殺人衝動、自分に都合の悪い部分だけを記憶消去できる依存システム。

トモミ そうなの?

サイコ 貴方が殴ったのは彼の横っ面じゃあなくて、彼の頭蓋骨…それも楡の脇の手ごろな岩でね。

ミドリ そう…これくらいのこと… (自分の手を見る視線で) イライラしてた、彼に体を求められた、その内どこからかパワーが湧いて、なんでも出来る気がして、頭痛くって、3ヶ月ぶりの生理で……ごめんなさい、私。

リサ 違うよ。

ミドリ えっ?

コノハ リサ?

リサ 貴方は誰も殺してはいない。

トモミ どういう事?

サイコ いいからいいから。

トモミ …でもサイコ…

サイコ それにしても、よくそこまで自分で思い出せました。なかなかいい兆候よ。ひとまずは良かった良かった。

視線の間を見て、グラスを取り、グッと飲むミドリ。

トモミ あ！
ハ、コ ミドリさん。
ミドリ ……え？

覚悟した反応が起きず、動揺するミドリ。サイコがグラスを取り、残りを飲み干す。

コノハ サイコさん。
ミドリ …うそ…。
サイコ （動き取り戻し）ケロっ。
え、じゃあ……

一瞬気が遠くなりその場に崩れるミドリ。抱きかかえるリサ。

サイコ （リサに）ベッドにお願い。ああそお、これ飲ませて。
リサ （薬を受け取り）やれやれ。

上手へ上手くミドリを運び出すリサ。

サイコ とまあ、ココまでが大芝居でしたとき。
トモミ …どこまでよ。
ハルト どこからかも分りません。
サイコ 単純なショック療法ね。目覚めた時ミドリさん、少しだけ良くなっているはず。
コノハ じゃあ、全てミドリさんの治療のため？…
サイコ 坂本教授からの指導もあってね。ギリギリになっちゃったけど。
トモミ なるほど。わざと派手なゲームを仕掛け、絶好の機会を与える…。
コノハ リサはいつから知ってたの？
サイコ 具体的には3日ほど前かな。どうしても手助けが必要だったんで。
ハルト それこそ私がやりたかった。

トモミ そういう話じゃないでしょ。あんたボロ出しそうだし。

ハルト そんなあ…

コノハ つまり、水に薬を仕込むまでがミドリさんの計画で、それを上手く摩り替えた。

サイコ （微笑んで）あなたに言われたくないけどね。

コノハ えっ？

サイコ リサには水を摩り替えてもらったけど、貴方は自分を摩り替えているでしょ？

コノハ サイコさん…

サイコ （コノハに正対し）無い物ねだりは駄目よ、コノハさん。貴方は確かに辛い恋愛を知らずに生きてきた。それに憧れるのは勝手だけど、そうやって来てしまったのは、他ならぬアンタの所為でしょ？ 手後れなの。もう貴方には、彼女に追いつく時間は残されていない。苦しむのにも時間があるし、後から経験できるって物でもない。時間は余程の事がない限り、後戻りしないからね。初雪のように、かき氷のように、ほとんどは消えていくモノだからね。

コノハ サイコさん…

サイコ どうだった？

コノハ えっ？

上手から少し疲れた感じのリサ。サイコの視線受け、

リサ ああ、うん。大丈夫。落ち着いた顔で眠ってる。

サイコ お疲れさん。じゃあ食事に戻りましょう。時間も少ないみたいだし。

ハルト （腕時計見て）あと7～8分ってところですね。

サイコ 冷めても美味しいはずだからさ。これは下げて、と。

複雑ながらも席に着く面々。辛かったスープ、怪しいコップなどを適当に片しながら…

サイコ ではあらためて（手を2回打つ）

全員 （手を1回打つ）

サイコ あ。

ハルト 何です？
サイコ …ゴメン。ここでタイムリミットかぁ
トモミ 何？ またトイレ…。
サイコ ああ…うん。それにします。
トモミ 何それ。
サイコ …ゴメンネ。先…食べてて。

いつになく神妙に去るサイコ。皆の視線、自然とリサに。

リサ 私に求めないで下さい、答えを。
サイコ (明るく覗いて) 残さなくていいからさ。それは私の一部だから。
去るサイコ。しばし固まる4人。

ハルト 何です？ 今の。
コノハ (微笑んで) 聖書からのパクリでしょ。
トモミ ああ、なんかあった気がする、パンを千切るくんだりで。
コノハ じゃあ、ま、食べましょうか。サイコもああ言ってたし。

適当に食べ始める面々。遠くで何かが壊されるようなノイズ。重機やディーゼル車の音。以下、食べながら、

トモミ いよいよおっぱじめたかなあ？
リサ 予定より早いじゃない。
ハルト ちょっと見てきましょうか？
コノハ いいよ。どうせさほど変わらないでしょ。
トモミ ……ねえ、じゃあさあ。
リサ 何です？
トモミ ミドリさんの彼氏はどうだったの？ どこまでが本当にあったことなの？
ハルト あ、でも、楡の木陰までは、ちゃんと私が目撃してますから。
リサ うん……私が酔ってタクシーで乗り付けたときさあ、サイコさんは若い子達にいろいろ指示出してたのね。頭から血を流している男の人を車に乗せながら……。ああ、車は彼の車ね。

ハルト ああ、じゃあ、やっぱり近くに隠してあったんだ。
トモミ え、じゃあ…ミドリさんが実行犯で、サイコが死体を遺棄したの。
リサ ちゃうちゃう。若い子達に頼んでたの。国道沿いの救急病院に向えて。病院に横付けしたら彼を運転席に移して、歩行者の目撃者を装って病院の受付に連絡を入れる……
ハルト へえ～……え、じゃあ…その彼氏は？
リサ ちゃんと平和に生きてますよ。サイコさんも時々連絡取ってたし。
ハルト そうだったんだあ。
リサ 多分その辺は抜かりなかったと思うのよ。だからもし、情報がリークされたとしたら、私を乗せてきたタクシーの運転手かもね。
トモミ なるほど…。
ハルト じゃあ、ミドリさんの異常なまでの脱ベジタリアン行為も、ある種の逃避行為だったのかなあ？
トモミ 当時の自分から遠ざかりたい。でも、殺傷行為のイメージはむしろ血とか肉に近いからね。一層吐き戻しに拍車がかかる……
ハルト そっかあ……
コノハ 頭蓋骨に凶器を振り下ろす風景……それすら忘れらるのね。
リサ 自分の中では「初めてのビンタ経験」に摩り替えて。
コノハ 摩り替えのプロってわけね。命まで貼って……。
リサ れっきとした病気なんだからね、彼女の場合は。
コノハ うん。そうね。
トモミ え、でも、じゃあ…彼氏が行方不明ってのは？
リサ それこそミドリさんの狂言でしょ。多分、その後に彼の施設訪問がない事を、誰かに突っ込まれたり、からかわれたりしたのね。行方不明は、その時こしらえたお話。
ハルト あ、それ私だったかも、つつこんだの…
トモミ なりほろねえ……
コノハ ……大丈夫かなあ。
トモミ えっ？ ああ、サイコ？
コノハ うん…確か、食事、残さなくてもいいって…
ハルト 確かに珍しいですね。いつもなら決まって残して…
リサ えっ？
ハルト ……何です？

ピクンと動いたまま硬直しているリサ。

リサ サイコ？……サイコさんなの？

全員 えっ？

リサ (皆に) 手をつないで、目を閉じて。

慌てて言われた通りにする皆。全員がピクンと反応する。

コノハ サイコさん…

ハルト 今どこです？…

リサ (一人だけピクンの後) …5文字しりとり、レベル4。……

全員 えっ？

リサ 最初は「ア」のつく言葉から。

ハルト あ、ですかあ……あ……あ……

コノハ (ピクンとして) 秋アカネ

ハルト 秋アカネ…… (ピクンとして) 茜空

リサ …ランドセル

コノハ …瑠璃たては

ハルト …鳩時計

リサ 石畳

コノハ 岬守

ハルト 輪転機

コノハ 気の病

ハルト (\$) 糸ミミズ

⇔ ⇔ ⇔ ⇔

トモミ (\$) ねえ、どうするの？

リサ えっ？

トモミ コツぐらい教えてよ、初心者なんだから。

リサ サイコ言葉は聞えた？

トモミ うん、最初のは。

リサ じゃあ大丈夫。自分から言葉を考えない、聞く時に風景を込みで受け取る。ちょっとサンプル送るね。

トモミ (ピクンとして) 天の川……凄い。

リサ じゃあ、皆の流れに乗って来て。

トモミ うん。やってみる。

以下の言葉は (\$) からコノハとハルトで継続されている。上記の会話が終わった当たりでトモミ、リサが加わる。最初のトモミは同時多発が望ましい。実際の時間尺や詳細は現場で。

コノハ 水絵の具

ハルト 軍資金

コノハ 金砂子 (キンスナゴ)

ハルト 御神灯 (ゴシントウ)

コノハ 通り道

ハルト 痴話げんか

コノハ 隠れ蓑

ハルト 登り窯

コノハ 祭りダコ

ハルト 転びグセ

コノハ 世界地図

ハルト 図版画家

⇔ ⇔ ⇔ ⇔

□□□ 風車

□□□ 招き猫

□□□ 高野味噌

□□□ 供え物

□□□ 野辺送り

□□□ 陸トカゲ

□□□ げんごろう

□□□ 裏メシア

□□□ 秋アカネ

□□□ 茜空

□□□ ランドセル

□□□ 瑠璃たては

□□□ 鳩時計
□□□ ……

だんだん語尾が重なりだし、時に同時多発も絡んで、えも知れぬスピリチュアルな空間（笑い）を醸し出す。例えば何度か回転し、「世界地図」で終わるとすると、

ト、リ 隠れ蓑
コノハ 登り窯
ハ、ト 祭りダコ
リサ 世界地図……えっ？……何？ サイコ？
コノハ （ビクンとして）はい…伝えます…サ行、3文字、「愛のカタチ」
トモミ 殺意。
コノハ 嫉妬。
リサ 素顔。
ハルト 誠意。
コノハ 阻害。
リサ （ビクンとして）え？、何？ 聞えないサイコ……ああ、うん。……サ行、5文字、「挨拶」………第2ヒント「お別れ」………第3ヒント「また会う日まで」………第4ヒント……もういいよサイコ、もう……

答えは分っているのに言葉に出来ずうな垂れる。やがて全員に何か告げられ、驚きの視線、手も離す。長い間。誰からともなく視線を絡める。何かを悟ったモノ達の沈黙。意識の交換。勢いを増す強制捜査のノイズ。身近でガラスの割れる音も。ほぼ同時に意識を合わせ、食事を食べ出す全員。覚悟と勇気を持ってガツガツ食べる。2度と視線を絡めない面々。ガラス割れる音、崩壊のSEの中、じわりと暗転。

【SCENE／5】 暗いままの舞台。今までより少しだけ長い暗転の中、ブリッジの曲が静かに消え、やがて以下の会話。

ハルトの声 だから、誰の許可を取ったかって聞いているの。
コノハの声 部屋でしょ。

ハルトの声 何？
コノハの声 だから、この部屋の許可よ。
ハルトの声 そうだよ、部屋の許可だよ。
コノハの声 問題ないじゃない。
ハルトの声 全然分らない。
コノハの声 ばっかじゃないの。
ハルトの声 そういう言い方は卑怯です。
コノハの声 だいたい頼むから変な笑顔のまま怒らないでよ。

いきなり明転。1年前の春と同じ図。ただしハルトは「不気味な笑顔」を保ち、ミドリの変わりに机にうつ伏せているのは清楚な衣装をしたリサである。まだ眠っている。ちなみ壁の色の変化は無くて良い。

ハルト ……変ですか？
コノハ 変と言うより…怖い。
ハルト えっ？
コノハ 怖いというより不気味。
ハルト でも、前にサイコさんから褒められた事あって…
コノハ …そう。
ハルト 待った。
コノハ 何？
ハルト 亡霊が混ざってる。
コノハ えっ？
リサ 待ってよ、サイコ！

寝言で叫ぶリサ。やがてゆっくり覚醒。頭を振ったりする。リサに視線を落とす2人は少し寂しげな表情。机の上にはお揃いの一輪挿しの花瓶が4個。コノハとハルト、通路側へ鋭い視線。やがて外への通路から畏まった衣装のトモミ。手には野原から摘んできたばかりの花。

トモミ こんなんでいいかなあ。
リサ うん。かわいい。

トモミ でもまさか、今日ココであなたと2人になろうとはね。

リサ 私は予想してたけど？ 山道を走るタクシーが前にも一台ある事を
知ってから。

トモミ だからそういう意味じゃなくてえ。

リサ …ああ…そうか。

ゆっくりと、一つ一つ丁寧に花を添えるトモミとリサ。視線を合わせ
ゆっくりと上手、下手に分かれて去るハルトとコノハ。

トモミ 皮肉なモンね、最後の治療のかいあって、すっかり回復したミドリ
さんが不慮の事故。

リサ うん。

トモミ そして何故だかハルトとコノハが身投げの心中……きつかったで
しょ？

リサ うん。…でも何となく分る気がする。亡くして初めて分るの。ココが
いかに大切だったか、サイコがいかに救ってくれてたか。

トモミ そう……行方不明はサイコだけか…。

リサ …結局なんだったんだろう。私達。

トモミ えっ？

リサ 自由意志で集まった気になってたけど、結局は必然だった気がする。
ギリギリの所で、すがって生きてきただけかも。サイコを中心にした依存
のシステムに。

トモミ そんなサイコですら守り切れなかった。…理想の集団性？……まあ、
脳の病気もあっただろうけど…

リサ 今までだって戦ってきた。それはこれからも変わらない。でも一人だと
ね。時々挫けそうになる。

トモミ …うん。

リサ 多分、どこまで行っても同じ。こちら側に居る限りは。

トモミ リサ…。

リサ でもギリギリ間に合った。

トモミ え？

リサ 最後の最後で一つになった。いろんなモノが見えた。あれをせめても
の剣に変えて、何とか生きていかなくちゃね…

トモミ (微笑んで) そうね。あんたがココを買い戻してくれたから、いつ
でもココで彼女たちに出会える。

リサ 花見の会、星祭り、秋には月見会、そして雪見会。

トモミ うん。……あれ？ そんな脚立、さっきあったっけ？

リサ えっと…あったんじゃない？ よく覚えてないけど……ああ、今ね、
こうしてたら急に眠気に襲われて…

トモミ ……じゃあ、これは？

気づけばテーブルの上の何だか大きなボタンに視線。

リサ ……ボタンですかねえ…

トモミ 何かのスイッチか。

リサ スイッチ？

トモミ 多分ね。何かを切り替えるスイッチだよ。これは。

リサ 何を切り替えるの？

トモミ 「今日鶏が鳴くまでに、貴方は3度私を知らないと言うでしょう」

リサ え、何それ？

トモミ …そうチクった私達だけが、今ココに居るのかもね…だから、私達
は決して触れてはいけないスイッチ。

リサ だから、何？

トモミ (微笑んで) ま、酒が入ってからゆっくりと。

リサ ふ～ん。

トモミ じゃあ、ま。カタチだけでも…

リサ うん。

テーブルに正対し、静かに合掌するトモミとリサ。2人不動の間にテ
ーブル下の小さなドアが開く。中からサイコ。下手から隠密のミドリ。

ミドリ ヒルチワ。

サイコ ヨルチワ。

合言葉を確認し、舞台前下手のサイコにササッと距離を詰める。顔を
合わせうなづく、すっかり隠密ゴッコの2人。

サイコ いいじゃない。ヨルチワ。
ミドリ いやあ、でもですねえ、やっぱ隠密の合言葉としては…
サイコ しっ。
ミドリ えっ？
サイコ …誰か居る。
ミドリ 後ろ。斜め後ろ。

合掌している2人に視線を送る2人。トモミとリサ、動きを回復。

トモミ じゃあ、行こうか。ココで飲むのもキツイしさ。
リサ そうね…麓に降りる？
トモミ うん。ちゃっかり駅前の新しい店予約しておいた。
リサ ほ〜い。

去りかけて、どちらともなく一度だけテーブルを振り返り、やがて下手に去るトモミとリサ。なぜかサイコとミドリはテーブル方向への視線でストップモーションしている。

サイコ なあんだ、アンタ達かあ。

テーブル視線の先、キッチン奥からフラリと登場するコノハとハルト。
ハルトは相変わらず最高の笑顔。

サイコ いい顔してるねえ。
ハルト ありがとうございます。
サイコ じゃあ…新しいレッスンに移ります。
コノハ いきなりですかあ…
サイコ はい。今までは、言葉と精神に重きを置き過ぎました。これからはもう少し肉体作りからアプローチしましょう。
ミドリ 今更ですか？
サイコ いいからいいから。じゃあこれを。

テーブル上の巨大ボタンに近づくサイコ。

ハルト それは？
サイコ 見た目の通り、スイッチです。
全員 スイッチ？
サイコ いいからいいから。

大きなモーションで「ピッ」とボタンを押すサイコ。底抜けに明るい曲が入り、瞬間に暗転。リズムに乗って明転すると、すでに4人の楽しげな「サイコの踊り」。笑顔の中、充分見せてゆっくり暗転。

—————終焉